

[平成11年度 普及に移す技術]

| | | | | | | | |
|--|------|----|------|----|----|----|----|
| 水稲直播栽培におけるイネツトムシの要防除水準 | | | | | | | |
| [要約] 水稲直播栽培におけるイネツトムシ第2世代の若齢幼虫期は7月5半旬から6半旬である。発生密度と減収率の関係から要防除水準は若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭である。 | | | | | | | |
| 福井県農業試験場・生産環境部・昆虫研究グループ | | | | | | 契機 | 研 |
| 部会名 | 生産環境 | 専門 | 作物害虫 | 対象 | 稲類 | 分類 | 普及 |

[背景・ねらい]

水稲直播栽培では稚苗移植栽培に比べてイネツトムシの発生が多くなる。第2世代幼虫の加害時期が直播栽培においては出穂前にあたり、収量が減少することがある。このことから直播栽培におけるイネツトムシの発生活消長を調べ、防除適期を明らかにし、発生密度と収量の関係から要防除水準を策定する。

[成果の内容・特徴]

1. イネツトムシ第2世代の発生活消長は産卵最盛期が7月4半旬頃、若齢幼虫期(体長1cm未満)は7月5半旬から6半旬である(図1)。
2. 防除適期は若齢幼虫期にあたる7月5半旬から6半旬である(表1)。
3. 若齢幼虫の発生密度と減収率には関連があり、減収率5%から求められる要防除密度は1㎡あたり4.4頭である(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 防除の要否を判断する目安となる。
2. 年によって発生時期がずれることがあるので、7月3半旬頃から1半旬ごとに幼虫の発生状況を調べ、第2世代の若齢幼虫期を把握する。
3. 若齢幼虫期に1圃場あたり5カ所程度の見とり調査を行い、若齢幼虫が平均して1㎡あたり4.4頭以上発生している場合はすみやかに防除を行う。

[具体的データ]

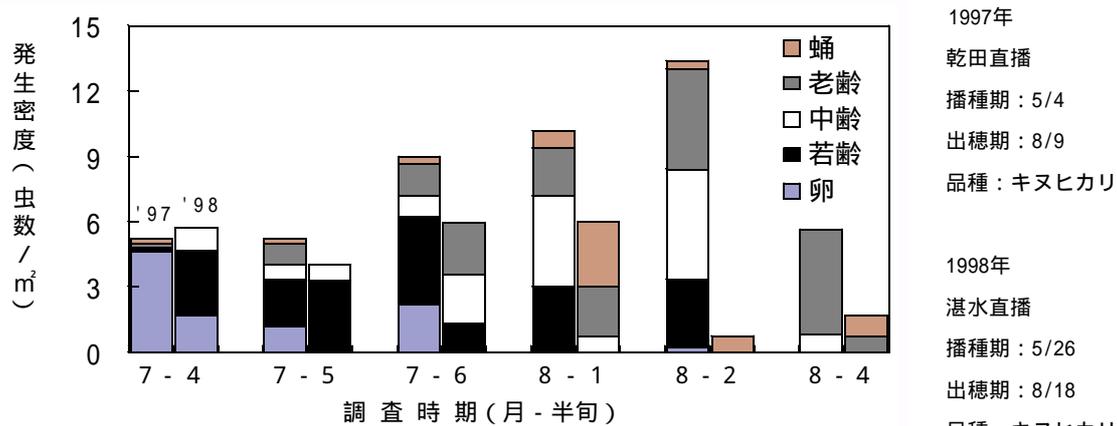


図1 イネツトムシ第2世代の発消長

表1 防除時期と効果 (幼虫数 / m²)

| 散布時期 | 1997年 | | | 1998年 | | |
|---------|-------|-----|-----|-------|-----|------|
| | 7月5半月 | 7-6 | 8-1 | 7月4半月 | 7-5 | 7-6 |
| 散布直前 | 6.3 | 4.3 | 5.0 | 0.6 | 3.6 | 3.7 |
| 散布5日後 | 1.3 | 0 | 0.3 | 0 | 0 | 2.0 |
| 生存率 (%) | 20.6 | 0 | 6.0 | 0 | 0 | 54.1 |

注) 1997年はBPMC・PAP粉剤 (4kg/10a) を散布。1998年はカルタップ粉剤 (4kg/10a) を散布。

幼虫数は若齢、中齢、老齢幼虫の合計。

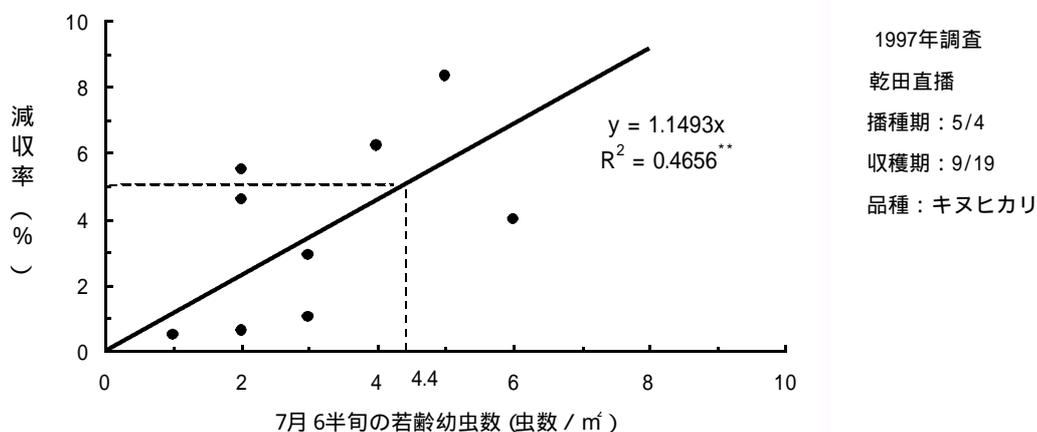


図2 若齢幼虫の発生密度と減収率

** 5%水準で有意

[その他]

研究課題名：直播栽培要防除水準確立事業

予算区分：国補 (植物防疫)

研究期間：平成10年度 (平成8年～10年)

研究担当者：増田周太、高岡誠一、小島孝夫 (現 高志農業改良普及センター)

発表論文等：なし